

発行日：平成14年3月20日  
発行者：医学部医学科広報委員会  
印 刷：やまと印刷株式会社

## 弘前大学医学部医学科広報紙

- 1面：医学部長退任のあいさつ  
2面：最終講義・新任教授紹介  
3～5面：特集・各賞受賞  
6面：公開講座「健康・医療講演会」  
7面：研究室紹介  
8面：医学科語学研修室LL完成  
題字 弘前大学長 遠藤正彦氏筆



遠藤正彦前医学部長は昨年十二月十八日、全教官による学長選挙で学長に選出された(二月一日付け発令)。医学部長を退任されるにあたり六年間の激職を振り返っていただいた。

# 医学部長退任のあいさつ

弘前大学長 遠 藤 正彦

六年前医学部長に就任した。既に全国的に大学改革の真只中で、本学では教養部廃止に連動した各学部の改革が検討されていたが、学紛争前夜という感すらあつた。

しかし、気が付いてみると、大学を評価する尺度が大きく変わっていた。全国四十二の国立大学医学部(医科大学)の中での様々な評価に関するランクインが公表されていた。英文論文数は最下位、文部省科学研究費の配分も最低、教授の就任数も新制医大グループの中で最も、その他入学試験倍率や偏差値、医師国家試験、大学院学生の充足率等々、どのランクインを見ても残念ながら最下位近くに位置していく愕然とした。全国最大規模の地域に医師を派遣し、その地域医療を担っているという誇りは変えるを得なかった。

就任直後、運悪く国立大

学医学部長会議の当番校で、東京大、千葉大、東京医歯大の在京三大学を率いて、

國立教育会館大会議室で議長となり会議を主宰した。

菅原和夫教授(衛生学講座)は昨年12月26日の医学部教授会で新医学部長に選出された(2月1日付け発令)。

今後二年間の抱負をご寄稿いただいた。

## 新医学部長就任にあたって

医学部長 菅 原 和 夫



菅原和夫教授(衛生学講座)は昨年12月26日の医学部教授会で新医学部長に選出された(2月1日付け発令)。

今や全国の国立大学は「独立行政法人化」問題や「遠

山プラン」に如何に対処し、

大学の生き残りにかけたバ

トルを繰り広げている状態

です。この課題を乗り切らなければ大学の存在さえ危

うくなりかねません。ここ

一〇二年が大学の将来の進

むべき道を決定する非常に

大切な時期であると思いま

す。このような重大な時期に

医学部長としての役割を

与えられたことは、大変大き

きな責任を感じるとともに

身の引き締まる思いであります。

弘前大学医学部(現在は

医学科)・附属病院は一九九

四年三月に第一回の、一九

九七年七月に第二回の、二

〇〇〇〇年六月に第三回目の

独自の自己点検評価を行つ

てきております。これを基

に二回の外部評価を受けて

おります。これを基に二回の外部評価を受け、そ

の報告書の指摘事項に具体的に対応し、改革が大幅に

進んだことと想います。さ

れども、連携を持つたものに

考え直す必要が有るかと

思います。診療につきまし

ては現在鈴木病院長の下に

診療体制の見直しがはから

れており、まもなく具体化

が上がつてきていると素直に思いたい。

風聞されていた医学部の評価が上がつてきていると素直に思いたい。

遠藤正彦前医学部長は昨年十二月十八日、全教官による学長選挙で学長に選出された(二月一日付け発令)。

医学部長を退任されるにあたり六年間の激職を振り返つていただいた。

遠藤正彦前医学部長は昨年十二月十八日、全教官による学長選挙

# 遠藤正彦教授 最終講義

遠藤正彦教授（生化学第一講座）の最終講義が、平成十四年二月十四日午後二時から、聴衆で満員の医学部臨床大講義室で行われた。泉井亮教授（学務主任）の挨拶の後、「人類未踏峰の糖鎖工学のピーカーをめざして」と題する講義が行われた。糖鎖工学のピーカーとは糖鎖を構成する糖の種類、配列およ

び長さを自由に設計し、これを目的のタンパク質に結合させて、それぞれ固有の機能を持つ糖タンパク質を生成することにある。多くの疾患の治療、老化の制御がこれらの糖タンパク質の生体への導入によって可能となると考えられ、二十一世紀のポストゲノムの研究分野として注目されている。

講義は遠藤教授が医学、生化学の分野に進んだ動機から始まり、糖鎖工学のピーカーを目指した遠藤教授と六十人の共同研究者の苦闘のしかし輝かしいチャレンジと、個性を持つ若い研究者を励まし、成功させる過程が生き生きと語られた。以下に講義の内容を要約する。

一、現在のバイオテクノロジーの問題点として糖鎖が考慮されていない事が指摘された。

二、糖タンパク質の総論的解説が行われた。

三、糖鎖工学の最終目的は生理活性糖鎖のリコンビナントタンパク質への導入であり、このためには糖鎖合

成の制御技術の開発が最初の達成すべき目標であるこ

とが述べられた。この問題

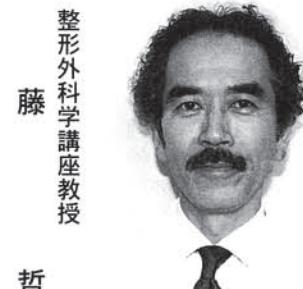
に対しても遠藤グループは糖鎖のオーダーメイド合成法



立見が出た満員の会場での遠藤教授最終講義

## 新任教授紹介

# 整形外科学講座 教授に就任して



整形外科学講座教授  
藤 哲

平成十四年二月一日より整形外科を担当しております。私は、前任の原田征行先生（現青森県立中央病院院長）のもとで、平成元年より助教授をしておりました。医学部ウォーカーの読者の方々には、今後ともよろしくお付き合いをいただきたいと思つております。

紙面をお借りして、私の仕事の紹介と今後の抱負について述べます。

### 仕事の紹介

私は、昭和五十年に弘前大学を卒業後、東野修治先生（現弘前大学名誉教授）率いる整形外科に入つてから、一貫して手の外科、マイクロサージャリー及び骨延長を応用した四肢再建術に関する臨床研究を主としてやつてきました。特にマイクロサージャリーを応用した手技は、手指再接（昭和五十四年）、足指移植（昭和五十五年）、血管柄付き皮弁移植（昭和五十五年）、血管柄付き骨移植（昭和五十一年）等の部位で糖鎖を加水分解するすべての酵素（endo-lycosidase）の同定・単離を開発し、さらに特定の糖鎖を含むタンパク質へ

の導入制御は完成の域にはまだ達していない。研究テーマの開拓は弘前大学の特色ある研究の一つである。遠藤教授と共に研究者による糖鎖工学の未踏峰が遠藤教授によつて育てられた若い研究者によつて登頂されることを望む。（正村記）



評議員 神谷 晴夫（寄生虫学講座教授）

# はじめて評議会に出席して

### 評議員 神谷 晴夫（寄生虫学講座教授）

私は患者さんに対して常に心掛けていた（そうしたことは、いと考へていた）ことは、遠藤正彦新学長の所信表明があつた。誠に格調の高いもので、この多難な時代に、荒海に乗り出す弘前大学丸の船長として静かな

六年）など、当教室として初めて手掛けたものばかりでした。このようないい手技は、他の外科領域に止まらず、脊椎外科・股関節外科などにも応用され、特に大腿骨頭壞死に対する血管柄付き脛骨移植術は、これまでに東北大学、秋田大学、聖マリアンナ大学で公開手術の機会を得ています。さらにこの組織移植の技術をもつて、教室の枠を越えた技術援助として他科の再建手術に参加する機会を与えられたことも、嬉しいことでした。手の外科領域では、手関節特に舟状骨骨折への骨折部を展開しない方法を初めて紹介し、現在この方法は新鮮例に対する標準手術になつています。関連病院を含めた舟状骨骨折の治療総数は現在まで三百例に達し、その結果を分析し治療体系を確立し、治療方法の改善に努めています。骨を延長する技術、特に骨移植を必要としない仮骨延長に早くから取り組み（昭和六十四年）、現在は治療成績に影響する因子などを、基礎的研究も含めて検討しています。

医学教育については、整形外科に関していくえば、機能解剖の理解が必要不可欠であり、このことがよく診断・治療につながるものと確信しています。可能であれば解剖などの実習と整形外科各論を組み合わせた講義・指導ができるのかと考えています。現在では医学の学ぶべきことはますます多くなつていますが、それでもかわらず、当然のことですが広く人間に興味を持ち、それを仕事に反映できるような医師になつて

いた。そのため、私にとっては、遠藤正彦新学長の所信表明があつた。誠に格調の高いもので、この多難な時代に短時間で評議し、それへ

工関節・脊椎手術・マイクロ・脚延長・関節鏡視下手術などの新しい手技、各種治療材料の開発など整形外科はめざましい発展をとげてきました。しかし単に「できる」ところからまだ脱却していない分野もあり、質的な観点に立つと、まだ改める余地があります。また各種再建方法も侵襲の大きいものとなつて、ものもあり、患者の負担を和らげ、最小の侵襲で最大の効果を挙げるための努力がもつと必要だと思います。

今後、老齢化社会、レジャー・スポーツ高度余暇時代に突入し、ますます整形

手術にも関わらず、いわれることですが、臨床教授の最大の責任は優れた医師の育成と、研究のためのより良い環境をつくることです。私が初めて行なうとする手術にも関わらず、よく東野・原田両歴代教授はじめ先輩諸先生方は常にバッタリとお付き合いをいただきたいと思つてきました。また整形外科には骨粗鬆症・スポーツ医学・慢性関節リウマチなど科を越えた診療体制が必要な分野もあります。このように国、大学あるいは科を越えた横のつながりを今後大事にしていきたいと考えています。私が医師になつてからの二十五年間、人

に心掛けていた（そうしたことは、いと考へていた）ことは、遠藤正彦新学長の所信表明があつた。誠に格調の高いもので、この多難な時代に、荒海に乗り出す弘前大学丸の船長として静かな

六年）など、当教室として初めて手掛けたものばかりでした。このようないい手技は、他の外科領域に止まらず、脊椎外科・股関節外科などにも応用され、特に大腿骨頭壞死に対する血管柄付き脛骨移植術は、これまでに東北大学、秋田大学、聖マリアンナ大学で公開手術の機会を得ています。さらにこの組織移植の技術をもつて、教室の枠を越えた技術援助として他科の再建手術に参加する機会を与えられたことも、嬉しいことでした。手の外科領域では、手関節特に舟状骨骨折への骨折部を展開しない方法を初めて紹介し、現在この方法は新鮮例に対する標準手術になつています。関連病院を含めた舟状骨骨折の治療総数は現在まで三百例に達し、その結果を分析し治療体系を確立し、治療方法の改善に努めています。骨を延長する技術、特に骨移植を必要としない仮骨延長に早くから取り組み（昭和六十四年）、現在は治療成績に影響する因子などを、基礎的研究も含めて検討しています。

医学教育については、整形外科に関していくれば、機能解剖の理解が必要不可欠であり、このことがよく診断・治療につながるものと確信しています。可能であれば解剖などの実習と整形外科各論を組み合わせた講義・指導ができるのかと考えています。現在では医学の学ぶべきことはますます多くなつていますが、それでもかわらず、当然のことですが広く人間に興味を持ち、それを仕事に反映できるような医師になつて





# 診療奨励賞

診療技術賞

## 検査結果迅速報告のための 早出勤務体制の構築

## ◆受賞者 附属病院検査部

齊藤 順子 中田 伸一  
高坂 公博 大瀧 千代子 小島 佳也  
葛谷 昭司

第6回 弘前大学医学部学術賞授賞式  
第5回 弘前大学医学部国際化教育奨励賞授賞式  
第4回 弘前大学医学部附属病院診療奨励賞授賞式



鈴木病院長による診療奨励賞受賞者の表彰式

(齊藤順子)  
おりがとうございました。  
（斎藤順子）

この度は、心のふれあい賞  
を頂くことができ、栄養管理  
室一同深く感謝しております。

以前より、病院食は「ま  
ずい」「冷たい」「早い」（夕  
食時間）といわれてきました。  
しかし、「まずい」に改善されま  
した。しかし、「最早的」に

日清医療食品

平野 聖治 長田 史恵  
館山 郁子 工藤あゆみ  
三上 昭雄 須藤 信子  
外栄養士七名  
外調理師三十七名

## 心温まるお祝い食の導入

## ◆受賞者 医事課栄養管理室

また、一つの撮影室内に撮影装置を複数台配置することにより、患者さんが、の対話を時間にする事が出来ました。

今後も診療サービスの向上を目指していきたく思っています。

尚、実施するにあたり、看護部の方々には御協力やアドバイスを頂き、本当にありがとうございます。

（斎藤順子）

## ◆受賞者 医事課栄養管理室

また、一つの撮影室内に撮影装置を複数台配置することにより、患者さんが、の対話を時間にする事が出来ました。

今後も診療サービスの向上を目指していきたく思っています。

尚、実施するにあたり、看護部の方々には御協力やアドバイスを頂き、本当にありがとうございます。

（斎藤順子）

## ◆受賞者 心のふれあい賞

また、一つの撮影室内に撮影装置を複数台配置することにより、患者さんが、の対話を時間にする事が出来ました。

今後も診療サービスの向上を目指していきたく思っています。

尚、実施するにあたり、看護部の方々には御協力やアドバイスを頂き、本当にありがとうございます。

（斎藤順子）

## 放射線部における 新放射線部情報システムの構築

## ◆受賞者 附属病院放射線部

尾崎 博一 金沢隆太郎  
須崎 勝正 神寿宏  
大谷 雄彦

放射線部のRIS（放射線情報システム）ワーキンググループを阿部部長より任命されたのが一昨年の六月頃でした。

それから半年後の新放射線部の開業にむけて、毎週一度勤務終了後にRISを構築するためのミーティングを深夜まで行いました。

作業は繁雑で、作っては直しの連続でした。しかしこのシステムのおかげで、技師の繁雑なコンピュータ入力（撮影条件や使用フィルム、医事会計情報）等が省略されその分の時間を、患者さんとの対話の時間にする事が出来ました。

また、一つの撮影室内に撮影装置を複数台配置することにより、患者さんが、の対話を時間にする事が出来ました。

今後も診療サービスの向上を目指していきたく思っています。

尚、実施するにあたり、看護部の方々には御協力やアドバイスを頂き、本当にありがとうございます。

（斎藤順子）

## 診療技術賞

# 国際化教育奨励賞

泌尿器科学講座助教授

高橋 信好

この度は国際化教育奨励賞を頂き、誠にありがとうございます。近年、日本の医学教育のあり方が、知識伝授に偏重した教育から臨床能力を重視した教育へと

ところは積極的に取り入れ、アレンジしていくことで、よりよい医学教育が実現していくものと確信しております。

このたびの受賞に際し、

この貴重な体験を、以前御指導いただきました欧州の某教授に話したところ、「ぜひ機会があれば自分達のカリキュラムもとても参考になるから見に来て欲しい」、との申し出もあり、今回の応募に至りました。幸いに

も、このような素晴らしい機会に恵まれましたので、

再認識し、クリニカルクラークシップなどの導入による臨床実習の充実の必要性

を痛感してまいりました。

この貴重な体験を、以前御

指導いただきました欧州の某教授に話したところ、「ぜひ機会があれば自分達のカリキュラムもとても参考になるから見に来て欲しい」、との申し出もあり、今回の応募に至りました。幸いに

も、このような素晴らしい機会に恵まれましたので、

再認識し、クリニカルクラークシップなどの導入による臨床実習の充実の必要性

を痛感してまいりました。

この度は国際化教育奨励賞を頂き、誠にありがとうございます。近年、日本の医学教育のあり方が、知識伝授に偏重した教育から臨床能力を重視した教育へと

ところは積極的に取り入れ、アレンジしていくことで、よりよい医学教育が実現していくものと確信しております。

このたびの受賞に際し、

この貴重な体験を、以前御

指導いただきました欧州の某教授に話したところ、「ぜひ機会があれば自分達のカリキュラムもとても参考になるから見に来て欲しい」、との申し出もあり、今回の応募に至りました。幸いに

も、このような

## ■地域住民に開かれた医学部を目指して

# 第一回「健康・医療講演会」鰺ヶ沢町で開催される

医学部公開講座推進委員会委員長 木村 博人



講演をする水沼教授

「大学」による公開講座は、大学の学術研究・教育の成果を直接社会に開放し、地域住民一般に高度な学習の機会を提供するものとして位置付けられている。大

学生の悩みの一因となつて位置付けられている。大

MCCで開催している公開講座の受講料が受講者数伸び悩みの一因となつている現状を踏まえて、受講料を無料とした。また、公開講

座という若干堅苦しい呼称を止め、「一般の方々が親しみやすく気軽に受講できるよう」という意味か

ら、名称を弘前大学医学部「健康・医療講演会」とした。具体的には、

昨年七月、県内二十二の自治体病院、総合病院に対し、地域住民の要望調査と病院の協力を依頼した。その後、

諸般の事情から準備が立ち遅れたが、

本年度は、鰺ヶ沢町、十和田市、五戸町で開催することとなり、講師ならびに各自治体病院の御協力のおかげで、ようやく平成十四年一月から三月の間に三回の講演会を企画・立案することができ

た。本講演会は、昨年四月に示された「弘前大学の存在を県南の地域住民にアピールせよ」という学長指示に即した事業の一環

この度内示があつた平成十四年度概算要求事項で附属病院に関する分は以下の通りである。

一、リハビリテーション部の新設これまで院内措置として設置され、リハビリテーションに大きな役割を担つていた理学療法部に替り、リハビリテーション部の新設が認められた。職員として教官二名（助教授一、助手一）、医（二）六、医

師（新規分）二名（診療放射線技師、臨床検査技師）が認められ、非常勤医師三名の配分があつた。更に、平成十三年度非常勤職員手当の追加配分が満額認められた。しかし、これまでのところはいつたときを思い出す。

「ざりぎりではなく、ようやう」のある字を希望と

いたことを思い出す。

（三）一が認められたが、よ

り専門的なリハビリテーシ

ヨンが期待される。

二、治験管理体制の整備

院内措置で設置され、薬

水沼教授、蓮尾先生の講演に移った。両講師ともユー

モアのある非常に打ち解けた話し振りで、講演後の質

問にも丁寧に答えて下さり、

二時間の講演会も束の間の

希釈に沿つて、産科婦人科

学講座 水沼英樹教授が「更

年期障害について」、弘前レ

ディースクリニック院長

蓮尾 豊先生が「青少年の

性の悩み」を講演すること

となつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある素晴らしい施設であった。講演会会場の五階会議室も非常に綺麗な部屋で、正面には

「弘前大学医学部健康・医療講演会」の看板と演題名・講師名の垂れ幕が二枚用意されていた。その上、約百名分程の椅子・テーブルに

集されることを期待しつつ、

鰺ヶ沢町の方々ならびに第

一回担当の講師の先生方に

紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が集まつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある。三月の十和田市、五戸町での講演会も一人でも多くの地域住民の方々が参集されることを期待しつつ、鰺ヶ沢町の方々ならびに第一回担当の講師の先生方に紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に

過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が集まつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある。三月の十和田市、五戸町での講演会も一人でも多くの地域住民の方々が参集されることを期待しつつ、鰺ヶ沢町の方々ならびに第一回担当の講師の先生方に紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に

過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が集まつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある。三月の十和田市、五戸町での講演会も一人でも多くの地域住民の方々が参集されることを期待しつつ、鰺ヶ沢町の方々ならびに第一回担当の講師の先生方に紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に

過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が集まつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある。三月の十和田市、五戸町での講演会も一人でも多くの地域住民の方々が参集されることを期待しつつ、鰺ヶ沢町の方々ならびに第一回担当の講師の先生方に紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に

過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が集まつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある。三月の十和田市、五戸町での講演会も一人でも多くの地域住民の方々が参集されることを期待しつつ、鰺ヶ沢町の方々ならびに第一回担当の講師の先生方に紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に

過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が集まつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある。三月の十和田市、五戸町での講演会も一人でも多くの地域住民の方々が参集されることを期待しつつ、鰺ヶ沢町の方々ならびに第一回担当の講師の先生方に紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に

過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が集まつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある。三月の十和田市、五戸町での講演会も一人でも多くの地域住民の方々が参集されることを期待しつつ、鰺ヶ沢町の方々ならびに第一回担当の講師の先生方に紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に

過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が集まつた。当日、私を含め三名が会場に到着すると、土曜日にもかかわらず、長谷川兼巳町長、星野恵治病院長、対馬庸子総婦長、西郡医師会々長小杉有信先生他、多数の鰺ヶ沢町役場職員の心温まる出迎えを受け、大いに感激させられると同時に弘前大学医学部に対する期待を感じさせられた。日本海拠点館は浜辺に面した風光明媚な場所に建つてある。三月の十和田市、五戸町での講演会も一人でも多くの地域住民の方々が参集されることを期待しつつ、鰺ヶ沢町の方々ならびに第一回担当の講師の先生方に紙面を借りて深く感謝申し上げる次第である。

あつた。

始めに、弘前大学医学部

公開講座推進委員会委員長として簡単にこの講演会の

上記の内容を述べた。

長谷川町長はじめ町立病院

職員、町役場職員の方々も

含め全員が終始熱心に聴講して頂き、本講演会のス

トに相応しく大成功だつた。しかし、これは杞憂に

過ぎず、開会時間の六時前頃から続々と町民が集まりたして何人位の聴講者が

病理學第一講座

教授  
工  
藤

どこの病理学講座でもそうだが、当教室も多忙だ。抛つて立つ自身のアイデンティティを見失いがちになる。教育、研究は当然だが、業務としての学内外から依頼される生検診断は寺

研究経過報告会となる。医局会（医局长：楠美智巳助手）もそれに引き続きもたられ、連絡事項や教室行事が話し合われる。技師や事務担当者の意見もこの場で吸収され反映される。

ようになつた。多くの非特異的組織所見を多変量解析で総合し、日常の病理診断に活用できるようにしたものが、地味な仕事ではあるが、方法論自体が強固だ。

凍結保存細胞を解凍し、繰り返しみてみた。局所の増殖は変わらない、それにもかかわらずリンパ節転移は再現しない。不思議だ。それ以来今日まで、何度も実験動物施設の片隅で、繰り返している。だが、最初容易に出来た状態と同じ細胞株はまだ手にしていない。細胞膜モデルで知られていて、二コルソンからは非殺

弘前大学医学部五十周年記念アンサンブルならびに弘前大学医学部管弦楽団による恒例のクリスマスコンサートが附属病院外来待合ホールで十二月二十一日に開催された。会場には開会式から多くの患者さんや職員が訪れ、まず新川秀一病

だ聖歌のメドレーなど心和ませる曲が演奏された。外  
来ホールを埋めた約百名の患者さんは時間のたつのも  
忘れ終始なごやかな表情で演奏を堪能した。(中沢記)



病理学第一講座、脳石病分子病態部門、また、寄生虫学講座との連帯を一層密にしている。

病理 特に特発性炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローアン病）に焦点を当てている。病理組織診断には臨床的背景を持つことが大事だが、特発性炎症性腸疾患の生検診断は特にそうだ。内科臨床十年後、病理に専念している。特発性炎症性腸疾患の生検検体収集から始まった研究が一段落し、その生検診断基準Tanaka's criteriaが日本でも目にする

研究会をもつたが、我が國から新潟大学の渡辺教授とともに討議に参加した。近くそのまとめが出る。これは本学の若手教官への外国視察研修支援を活用したものであり、この機会を借りお礼を申し上げる。潰瘍性大腸炎は、本学第一内科を創設し駒込病院長へ転じた故松永藤雄先生が開拓者であるだけに、工藤にはこだわりが大きい。

協力は欠かせない。楠美助手も、長年の整形外科医としての豊富な臨床経験を経て病理へきた。後に記すマウスの骨肉腫細胞株を対象に分子病理学を開拓している。最近は細胞分化そのものへ興味を微妙に移していく。業務である剖検や生検診断も、教室の中心として活発に活動している。

由だ。転移モデルとして有名な細胞株もあつたが、種々の理由で、信ずるに値する転移細胞株を自ら樹立することから始めた。しかも、ひとつつの腫瘍からいろいろな臓器へ特異的に転移する臓器特異的自然転移細胞株の樹立を意図した。マウスのルイス肺癌に的を絞り、先ずはリンパ節へ特異的に自然転移する細胞株づくり

様々なことを考ふさせることの一つに、現実問題として凍結卵使用が浮上してきました。幸い弘前大学医学部倫理委員会に凍結卵を用いた審査申請は未だない。工藤さんが倫理委員会委員長である限りその承認あるいは了承されることは無いだろう。これは委員会で発言している。われわれは、まだ、そんなに知つていないのだ。院生は何れかに属しています。

**山本和之氏による**

いところに話ををするのではなく、「キヤッチボールの会話」、つまり相手のいるところに話をすることが重要だと言われたことが極めて印象的であった。講義をする者にとって、また患者と対話する医師にとって、これが大変貴重な機会であった。

## 山本和之氏によるFD講演会開かれる



## サンタの衣裳で演奏する楽員たち

生検組織や術後組織について、マクロやミクロをスクリーニングやハイビジョンに示し参加者全員で議論。外科が持参した切除検体の共同切り出しも行われ、次回

対象ではない。自家癌！）の免疫治療実験を最後に区切りをつけ、がんの転移の研究を志した。理由がある。癌患者の病理解剖をするとき、その転移の多さに驚く。

凍結保存した。次に肝や腎等への特異転移細胞株をつくることに努めた。ある時、先のリンパ節特異自然転移細胞株を解凍し、生体へ戻し移植した。再現しない！

院生が見いだした。複数の研究所へ分与されているが、凍結細胞クライオチユーブ送付時にはコメントを付している。慎重にならざるを得ない。

と、ポイントとなる言葉を  
ゆつくり言うことなどであ  
る。しかし、最も大事なこ  
とは「熱意と愛情をもつて  
話すこと」であり、「テニス  
の会話」、つまり相手のいな

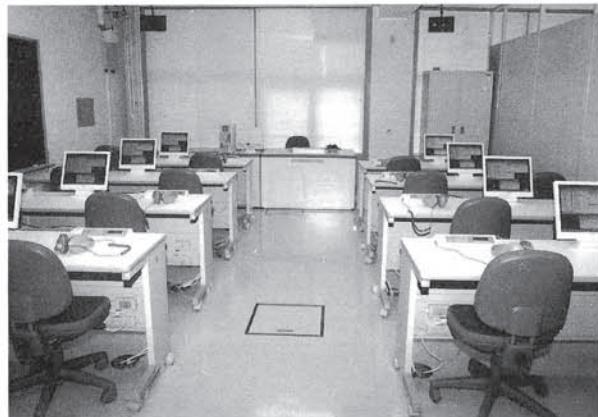
A black and white photograph of Yamamoto Kazuyuki, a man with glasses and a mustache, wearing a suit and tie, sitting at a desk.

# 医学科語学研修室 LL完成

医学科では、弘前大学の方策に沿うものとして、学科内に「L-L」(Language Laboratory)の設置を計画し、(平成十三年教育改善推進費要求事項)、作業を行ってきましたが、平成十四年二月末に完成の運びとなりました。

ししは（いうまでもなく）オーディオ、ビデオ等の機器を用いて外国語研修、とりわけ外国语会話の研修を効果的に行う教室のことで、コンピュータを組み入れた多機能のものはCALL(Computer-Assisted Language Laboratory)といわれます。このことから、医学科に設置されたししをここではMEDICAL-Lと仮称します。

吉田 今 帷子 池 大  
豊子 康雄 充 豊  
大池 弥三郎先生御遺族



教育を特に強化してきた。ここで医学科教官並びに学生の外国语会話能⼒を飛躍的に向上させ、国際化事業の主動力とする目的で、LLSを利用した専任外国人講師による少數精銳の語学研修・国際化教育を開始したい。

用面での工夫が今後の課題になると思われます。

最後に、L.L設置の経費は教育改善推進費（L.L設置調査費）と医学部（現医学科）関係者皆様の寄付金によったことをお知らせし、以下にご寄付いただいた方々のお名前を掲げて感謝いたします（敬称等省略）。

MEDICALは一層の外国語会話能力を希望する医学科生と教官に対し演習（学習）の場を整備・提供するものです。装置に入れられた教材で利用者が自ら学習するのが基本的利用法ですが、語学研修の効率・能率という観点からは、外国人会話講師を擁した会話プログラムを開設するなど、運

真)。MEDICALLは、会話を聞く(読む)、話す、比べるなどの基本的な機能のみに限定し、当座不要と考えられる付加機能を排した省エネ指向のシステムで、将来的に新しい機能が必要になれば、コンボーネントを追加して機能拡張を行うことになります。

MEDICALLは既設医学科コンピュータ室（ネットワークPC百十二台設置）の後方をパーテイションで仕切つた一室に新設されました。制御卓（教官側）一、学習卓（研修者側）十六で構成され、同時に十六人まで語学演習が可能です（写

グリーン・キャンバス・ウラヅ

医学科四年 系谷 漣

コラム  
医学部  
こぼれ話

コラム  
医学部  
こぼれ話

A tall, slender Christmas tree is the central focus, standing in front of a large window. The tree is densely decorated with various ornaments, including shiny baubles and larger, more intricate decorations like stars and pinecones. To the right of the tree, a portion of a stone wall is visible. Through the window, a city skyline with numerous lit-up skyscrapers can be seen at night.

編集後記

例年になく雪の少なかつた今年の冬であるが、入学試験が滞りなく行われていいことは喜ばしい。

渡邊 学（ジャマイカ国）  
職務復帰（14・3・1）

弘前大学長へ昇任(14)
遠藤 正彦
● 医学部
昇 任(13・12・16)
内科学第一 講師
田村 好弘(助手)
採 用(13・12・16)
内科学第二 助手
松永 敏郎(医員)
内科学第三 助手
崎原 哲(医員)
外科学第一 助手
畠中 亮(医員)
採 用(14・1・1)

昇任	(14·2·1)	武(医員)
整形外科学	教授	
併任	(14·2·1)	藤哲(助教授)
医学部長		
菅原和夫		
評議員		
神谷晴夫		
生化学第一 教授		
遠藤正彦		
派遺(14·2·16)		
三田公衆衛生学 教授		
衛生学 助手		
渡邊学(ジャマイカ国)		

